

長峰地区土地改良事業に伴う埋蔵文化財調査報告書 3

長峰谷口B 1

—長峰谷口B遺跡第1次調査の報告—

2 0 1 3

福岡市教育委員会

長峰谷口B 1

—長峰谷口B遺跡第1次調査の報告—

福岡市埋蔵文化財調査報告書 第1206集



遺跡略号 調査番号
NGB-1 1111

2013

福岡市教育委員会

本文目次

はじめに	1
第1章 位置と環境	3
第2章 調査の記録	7
1. 調査概要	7
2. 遺構と遺物	7

図版目次

Fig. 1 長峰谷口B遺跡と周辺の主な遺跡 (1/25,000)	4
Fig. 2 調査区位置図 (1/10,000)	5
Fig. 3 調査区全体図 (1/400)	6
Fig. 4 福岡市長峰土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査区の位置① (1/3,000)	折込1
Fig. 5 福岡市長峰土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査区の位置② (1/3,000)	折込2
Fig. 6 3区・5区東壁土層断面実測図 (1/60)	7
Fig. 7 SD01・09実測図 (1/100)	8
Fig. 8 SD01・09土層断面実測図 (1/30)	8
Fig. 9 2区SK34・4-2区SK35・5区SX26実測図 (1/60)	9
Fig.10 長峰谷口B遺跡第1次調査出土土器実測図 (1/3)	10
Fig.11 長峰谷口B遺跡第1次調査出土石器実測図 (1/2)	11

序

玄界灘に面して広がる福岡市には豊かな歴史と自然が残されており、これを後世に伝えていくことは現代に生きる我々の重要な努めであります。

福岡市では開発事業に伴い、やむをえず失われていく埋蔵文化財については事前に発掘調査を実施し、記録保存に努めています。

今回、長峰地区土地改良事業を行うに当たり、松木田遺跡・内野熊山遺跡・岸田遺跡・長峰谷口B遺跡の発掘調査をおこない、多くの貴重な成果をあげることができました。

本書は長峰谷口B遺跡の報告となります、今年度より3ヶ年間の計画で本事業にかかる調査報告書を作成することとしております。

本書が文化財保護へのご理解と認識を深める一助となり、また研究資料としても活用していただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から本書の刊行にいたるまで、福岡市長峰土地改良区の皆様をはじめとした地域の皆様、そして関係各位のご理解を賜り、多大なるご協力をいただきましたことに對し厚く御礼申し上げます。

平成25年3月22日

福岡市教育委員会
教育長 酒井 龍彦

例　言

1. 本書は福岡市教育委員会が、長峰地区土地改良事業に伴い、平成23年度に早良区早良地内において実施した発掘調査のうち、長峰谷口B遺跡第1次発掘調査の報告書である。
2. 遺構の実測は阿部泰之・山田ヤス子・宮原邦江が行った。
3. 遺物の実測・挿図の製図・写真の撮影は阿部が行った。
4. 本書で用いる方位は磁北であり、座標北から6°西偏し、真北から6°18'西偏する。なお座標は特に断らない限り世界測地系を使用している。
5. 本書で用いる遺構番号には遺構の性格を示す略号を付して表記している。略号は溝（SD）、土坑（SK）、ピット（SP）、性格不明の遺構（SX）である。
6. 本書に関わる図面・写真・遺物等の全資料は福岡市埋蔵文化財センターで収蔵・保管されるので、活用いただきたい。
7. 本書の編集・執筆は阿部が行った。

長峰谷口B遺跡第1次

遺跡調査番号	1111	遺跡略号	NGB-1
所在地	早良区早良4丁目地内		分布地図番号 S16-2885
開発面積	19ha	調査面積	1,984m ²
調査期間	平成23年7月4日～平成23年8月19日	事前審査番号	19-1-38

はじめに

1 調査に至る経過

平成19年7月23日付け、農計第387号により、福岡市農林水産局農林部農地計画課長より埋蔵文化財第1課長宛に、早良区早良2～5丁目地内における、長峰地区基盤整備促進事業にかかる「埋蔵文化財の事前審査について（依頼）」が提出された（事前審査番号19-1-38）。当該事業は平成21年度～23年度の3ヶ年にわたって、長峰地区的耕地19.0haにおいて圃場整備事業を行うものである。計画地域内には周知の埋蔵文化財包蔵地として、松木田遺跡・岸田遺跡・下兵庫遺跡・内野熊山遺跡が存在しており、書類審査を行った埋蔵文化財第1課では、計画地域全体を対象として試掘調査が必要な旨を回答した（平成19年7月24日、教理1第1260号）。この後埋蔵文化財第1課、農地計画課および、施工主体である長峰土地改良区（樋口重剛理事長）によって協議が重ねられた。その結果平成19年8月7日付けで、長峰土地改良区理事長名で教育長山田裕嗣宛に埋蔵文化財予備調査承諾書が提出された。これを受けて埋蔵文化財第1課では平成19年8月28日～平成20年4月22日の期間で全面を対象とした試掘調査を行った。試掘調査は地権者と協議の上、耕作の行われていない田面から随時行うこととし、一部の調査不能であった田面を除いて、計画地全体に設定した。試掘トレチの総数は321本であるが、調査後に再度耕作をするため、各トレチは幅1m、長さ2～5mの小規模なものとなっている。この試掘調査の結果、計画地の北東側は室見川の氾濫原となり、遺構は確認されなかつたが、西～南側の段丘面上を中心として濃密な遺構群が展開していることを確認した。この結果を平成20年6月4日付け、教理1第633号で農地計画課長宛に「埋蔵文化財の事前調査について（回答）」で回答した。この回答を承けての協議で、事業実施に当たっては、工事によって埋蔵文化財の破壊が避けられない地区および施工後の保護盛土が20cm以下もしくは2m以上となる地区については発掘調査を行い、記録保存を図る必要がある旨を伝え、試掘調査結果と事業計画のすりあわせを行い、発掘調査が必要な地区と現状保存が可能な地区を明確化する作業を行うこととした。この結果、平成21年度～23年度の施工計画にあわせ、各年度4月から調査対象地について発掘調査を行うこととし、当該年度の調査地点が終了後は、次年度の要調査地点についても、地権者の了解が得られる田面については継続して発掘調査を行うこととした。また、調査中においても計画高の見直しを行い、積極的に遺構の保存を図ることとした。

以上の協議を行ったうえで、平成21(2009)年4月15日～平成22(2010)年10月7日の期間で松木田（まつきだ）遺跡第4次調査（遺跡略号：MKD-4、調査番号：0905）、平成21(2009)年10月27日～平成22(2010)年10月19日で岸田（きしだ）遺跡第1次調査（遺跡略号：KID-1、調査番号：0930）、平成22(2010)年9月16日～平成23(2011)年1月25日で内野熊山（うちのくまやま）遺跡第1次調査（遺跡略号UKY-1、調査番号：1025）、平成23(2011)年7月4日～平成23(2011)年8月19日で長峰谷口（ながみねたにぐち）B遺跡第1次調査（遺跡略号：NGB-1、調査番号：1111）の調査を行った。なお、整理作業は調査に並行して行い、報告書は平成24年度から3ヶ年で刊行予定である。なお文化財部は、組織改編のため平成24年4月1日付で教育委員会から経済観光文化局に移管した。

発掘調査に当たっては地元施工主体である福岡市長峰土地改良区の地権者の皆様方には、多大なるご理解とご協力をいただき、土地の借用をはじめとして有形・無形のご援助を賜りました。また、地元住民の皆様、設計・施工関係者の方々にも、ご協力をいただきました。ここで、深甚の謝意を表します。

2 調査体制

事業主体 長峰土地改良区

調査主体 福岡市教育委員会文化財部埋蔵文化財第2課

(現・福岡市経済観光文化局文化財部埋蔵文化財調査課)

調査総括 埋蔵文化財第1課長 清石哲也

埋蔵文化財第2課長 田中壽夫

事前審査・査叢文化財第1課 事前審査係（現・査叢文化財審査課事前審査係）

吉留秀敏・星野東洋

調査庶務・文化財管理課管理係（平成21年度）／埋蔵文化財第1課管理係（平成22・23年度）

(現・烟蔵文化財審査課管理係) 主催とも子

² 調査担当：相模文化財第3課、長宗伸、加藤隆也、土屋紀文、松尾奈緒子、阿部泰之（木根生）

3 各調查概要

第1章 位置と環境

地理的環境

早良平野は福岡市の中部、背振山系に源を発する室見川によって形成された扇状地性の平野である。南北に流下する室見川にあわせて標高を北に漸減させ、中流域から南はとりわけ傾斜が顕著である。この平野は東方を油山山地から北方に延びる飯倉丘陵に、西方を西山・飯盛・高祖山地に限られ独立した1地域の様相を呈する。かつてはこれらの山地・丘陵が郡境をなした。

室見川にはこれらの山地から中小の河川が支流となって流入している。とくに西方の西山・飯盛・高祖山地からの流入河川が多い。これら中小の河川も各々の扇状地を形成しており、山地山麓部とともに早良平野に接続する段丘面となる。平野部のみならずこれら東～北東向きの斜面には数多くの遺跡が存在しており、早良平野の大半が遺跡となる状況である。

今回発掘調査を実施した長峰谷口B遺跡は室見川の支流たる龍谷川によって開析された丘陵東斜面に位置する。この丘陵は花崗岩の大礫を含む砂礫層で形成されており、その成因としては大きな谷が大規模な土石流で埋没し、その南北が現在の龍谷川によって侵食されたものと推測される。

歴史的環境

早良平野の埋蔵文化財は多く、時期も旧石器時代から近世に及ぶ。ここでは長峰谷口B遺跡周辺の遺跡に絞り、特に関連が大きい縄文時代と古代を中心にしてまとめてみたい。

縄文時代の遺構・遺物は、脇山A遺跡で遺物包含層中より押型文土器・轟式土器が、くぼみ状の土壤から古閑式新段階～黒川式期の遺物が出土している。東入部遺跡では遺物包含層およびくぼみ状の住居址から鐘ヶ崎式期の遺物がまとまって出土した。大坪遺跡では包含層から前期曾畠式土器、広瀬遺跡では主に早期押型文、晚期黒川式期の遺物が包含層から出土している。松木田遺跡では早期撫糸文土器期の遺物包含層が検出されている。浦江遺跡では早期中原式期の土器を含む遺物包含層が検出された。乙石遺跡では落とし穴状遺構が検出されている。なお、ここでは取り上げなかったが、新しい時期の遺構に混入して少数の縄文土器片、石器が出土する遺跡が多い。

早良平野奥部での縄文時代遺跡は、遺物包含層から摩滅の少ない多くの遺物が出土する傾向にあり、とくに古い時期には明瞭な遺構の検出例は少ない。ただし出土遺物の時期幅や量からみて未発見の縄文時代集落が存在する可能性もある。

古代になると、それまで遺構・遺物が希薄だった地域にも大型の掘立柱建物跡が出現する。

金武青木A遺跡では掘立柱建物跡のほか、8世紀後半の遺物包含層から多くの墨書き・刻書土器が出土した。複数の木簡も出土しており、その内容から本遺跡と怡土城との関連が指摘されている。金武城田遺跡では7世紀～9世紀段階の大型掘立柱建物跡が切り合って検出され、桁行が長大なもののが含まれる。遺物は銅鏡・越州窯系青磁のほか灯明皿に使用された壊が多く、建物群の性格を示唆するものである。都地遺跡でも桁行が長大な掘立柱建物跡が検出された。都地泉水遺跡・乙石遺跡では8世紀代の製鉄関連遺構が検出され、都地泉水遺跡では「那珂郡乎佐」刻書須恵器甕が出土している。

古代の早良郡奥部は、怡土郡に抜ける日向峠を擁し、怡土城の後背地であり製鉄が盛んにおこなわれる重要な地域であった。これらによる生産・運搬を効率的に把握・管理するために多くの掘立柱建物跡からなる施設が構築されたのであろう。しかしこれら建物群を構築した人々の集落はいまだ確認されておらず、今後の発見が期待される。

本章掲載の埋蔵文化財包蔵地の範囲は平成24年3月現在の推定線であり、その後変更されている可能性があります。また、煩雑を避けるため本文に直接関係しない遺跡については省略しています。

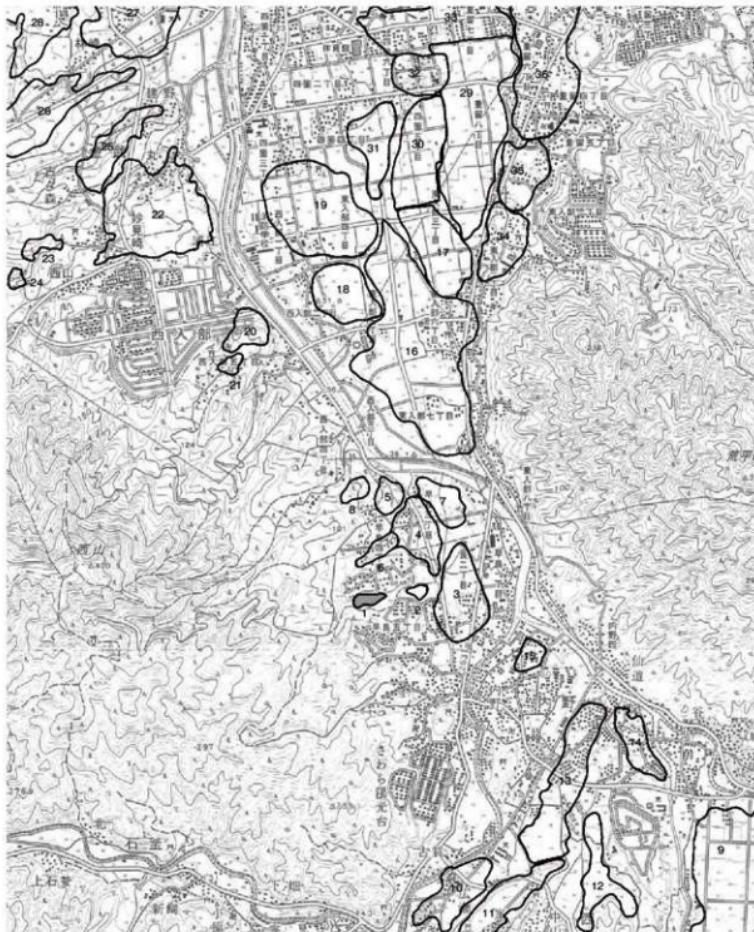


Fig. 1 長峰谷口B遺跡と周辺の主な遺跡 (1/25,000)

- 1.長峰谷口B遺跡
- 2.長峰谷口A遺跡
- 3.内野熊山遺跡
- 4.松木田遺跡
- 5.岸田遺跡
- 6.長峰壇棺遺跡
- 7.下兵庫町遺跡
- 8.鶴来果遺跡
- 9.駒山A遺跡
- 10.広瀬遺跡
- 11.峯遺跡
- 12.中山遺跡
- 13.内野遺跡
- 14.柿木原遺跡
- 15.大坪遺跡
- 16.東入部遺跡
- 17.岩木遺跡
- 18.安通遺跡
- 19.清末遺跡
- 20.黒塔A遺跡
- 21.黒塔B遺跡
- 22.浦江遺跡
- 23.金武青木A遺跡
- 24.金武青木B遺跡
- 25.金武城田遺跡
- 26.乙石遺跡
- 27.都地遺跡
- 28.都地泉水遺跡
- 29.重留遺跡
- 30.四箇船石遺跡
- 31.四箇古川遺跡
- 32.四箇東遺跡
- 33.四箇遺跡
- 34.ヒワタシ遺跡
- 35.熊本遺跡
- 36.重留村下遺跡



Fig. 2 調査区位置図 (1/10,000)

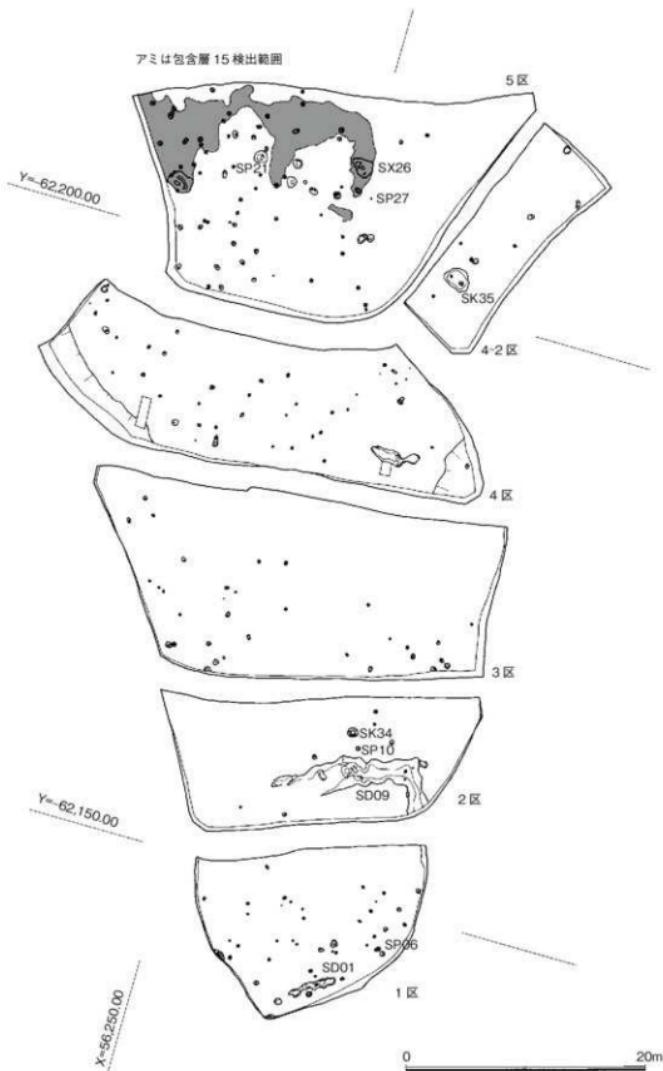


Fig. 3 調査区全体図 (1/400)

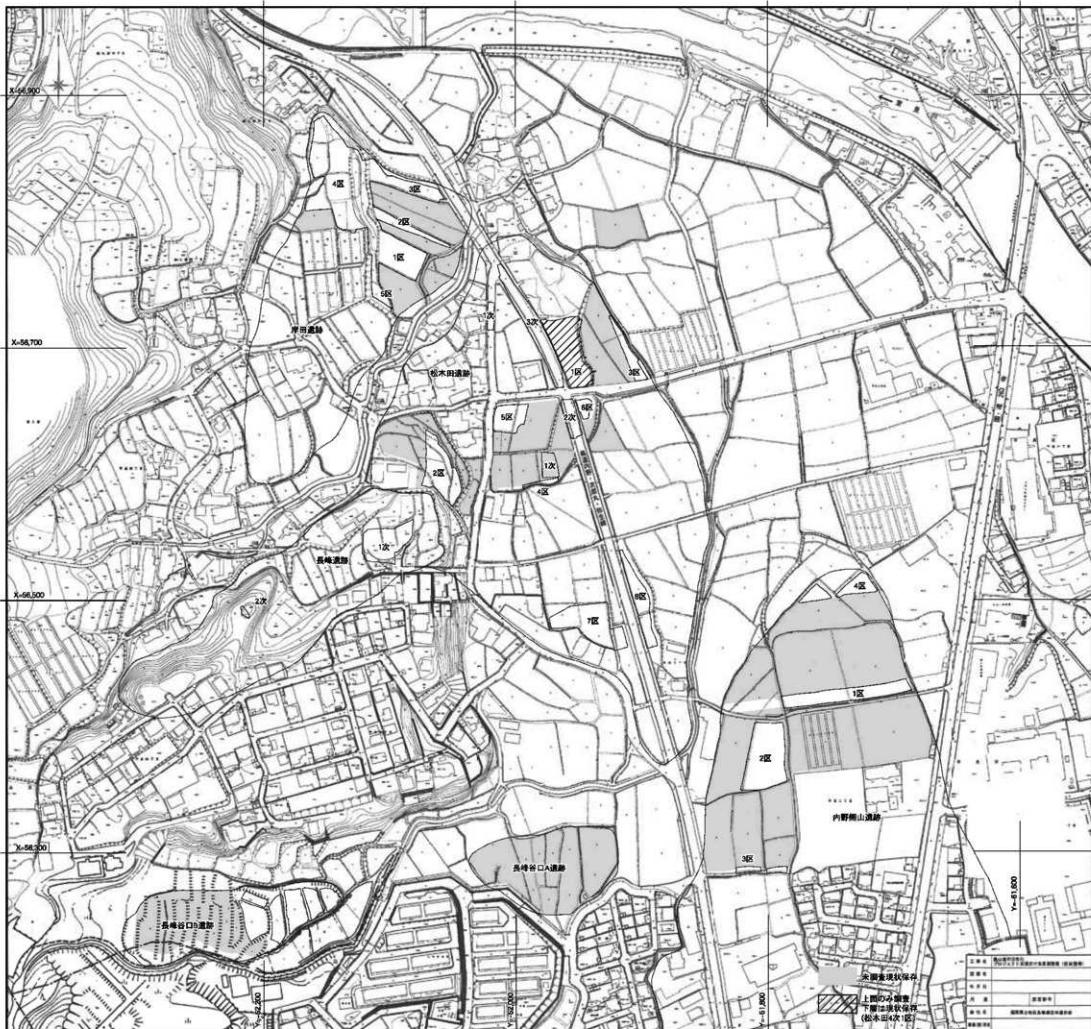


Fig. 4 福岡市長峰土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査区の位置① (1/3,000)

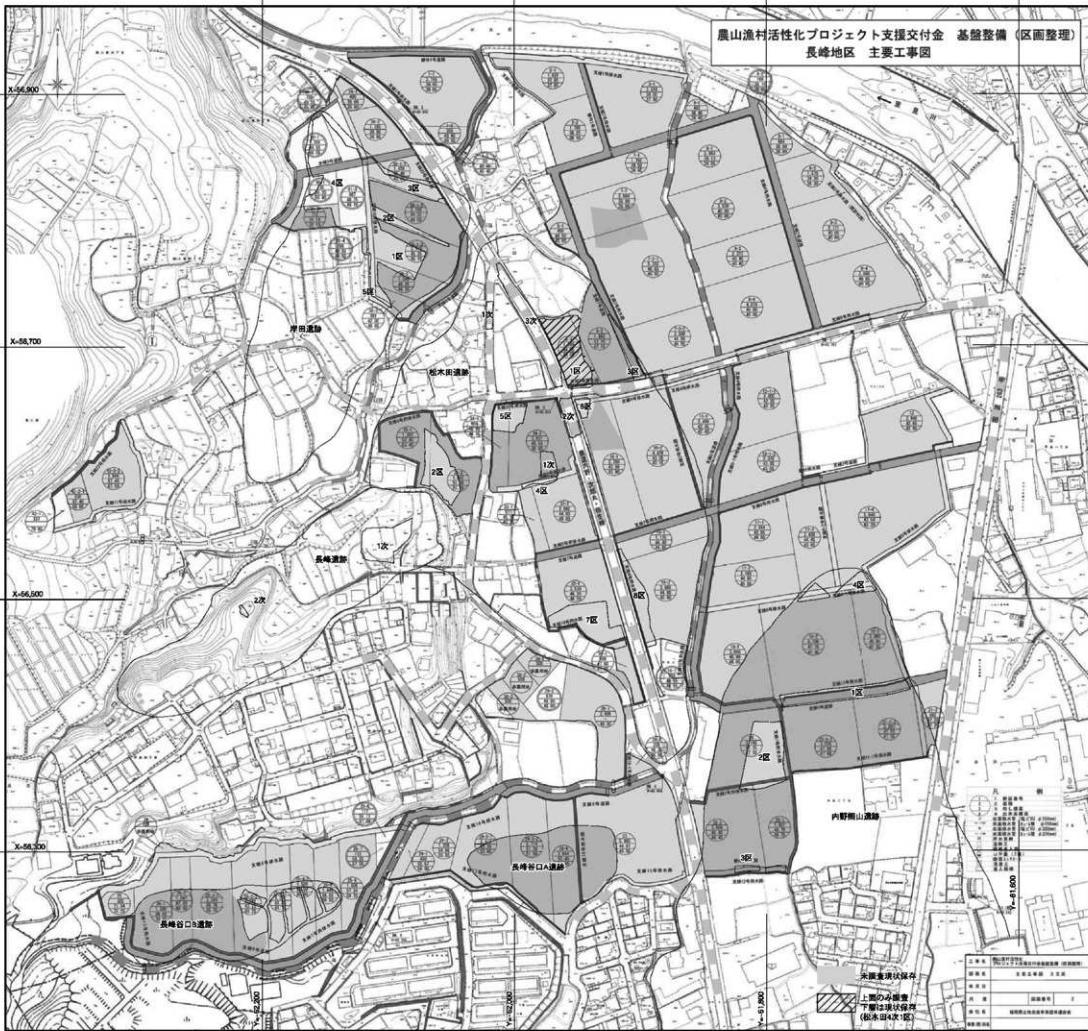


Fig. 5 福岡市長峰土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査区の位置② (1/3,000)

第2章 調査の記録

1. 調査概要

調査地は室見川西岸、東西方向に延びる丘陵上に位置する。南北を室見川の支流によって開析された谷に挟まれ、東に向けて標高を下げる残丘状となっている。今回は長峰地区土地改良事業に伴い、試掘調査によって遺構が発見され、かつ設計上遺跡の破壊をまぬかれない範囲について発掘調査を実施した。調査区は旧水田の区画に合わせ、東側から1区～5区と便宜的に区分した。調査中も隨時試掘を実施し、遺構が確認できなかった水田は調査対象から外した。

遺構面は現耕作土・床土なし盛土の直下、黄白～黄褐色砂礫層である。ただし最上部の調査区では旧表土とみられる黒褐色土層が一部残存し、縄文後・晩期土器、平安時代土師器・鉄滓を含む包含層が部分的に検出された。

今回の調査で検出された遺構は溝2条、焼土坑、ピットである。遺物は溝から須恵器・土師器・黑色土器、遺物包含層から土師器・鉄滓、縄文後期～晩期土器、石器、その他1点のみ押型文を有する小片が出土した。焼土坑から遺物は出土せず、ピットは大半が木の根痕である。

今回の調査では主に古代末の溝および包含層を検出した。溝はL字形に屈曲するものがあり、削平のため建物等は検出できなかったが区画溝の可能性がある。早良平野奥部でみられる官衙的建物群に関連するものか。包含層は古代末頃の遺物を含み堆積の時期は古代。これに含まれる縄文土器は摩滅の度合いが低く、近辺に当該期の集落が存在したものと推測される。

2. 遺構と遺物

①溝 (SD)

SD01 (Fig. 7)

1区東縁辺部にて延長約4mを検出した。南北方向に延びる溝で幅20～60cmと不整である。底面も凹凸があり平坦ではない。深いところでも10cmを切り、大きく削られていることがわ

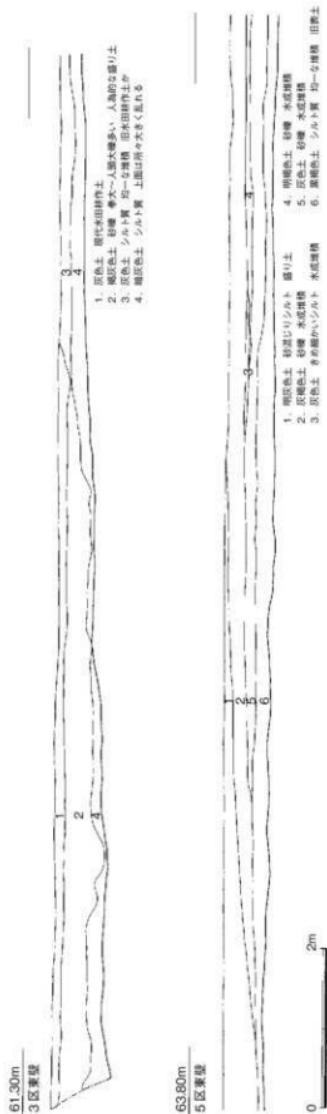


Fig. 6 3区・5区東縁土層断面実測図 (1/60)

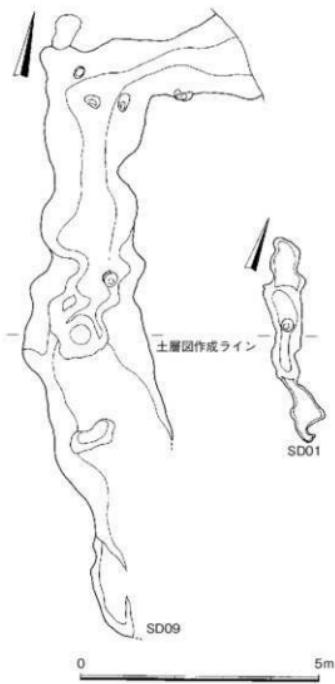


Fig. 7 SD01・09実測図 (1/100)

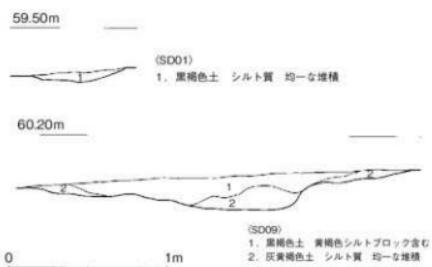


Fig. 8 SD01・09土層断面実測図 (1/30)

かる。土層断面を Fig. 8 に示す。埋土は黒褐色シルト質土で、均一な堆積状況である。

遺物は出土しなかった。

SD09 (Fig. 7)

2区東部にて検出した。南北方向に延び、北端で東に屈曲する。幅1m～2.6m、深さ8～20cmと何れも出入り、凹凸がある。土層断面を Fig. 8 に示す。上部に黒褐色土、下部は地山に近い灰黄褐色土で、流水の痕跡はなく自然堆積である。

出土遺物 (Fig. 10)

1を除き上部の黒褐色土から出土した。1は縄文土器である。黒川式系統の精製の浅鉢で、口縁部の小片。外面の沈線に赤色顔料が残存する。2・3・5は須恵器。2および3は壺である。2は底部の小片で底径7.0cmに復元される。3は口縁部の小片で口径15.2cmに復元される。1区SP08出土須恵器と接合した。5は蓋である。焼けひずみが顕著。1/3個体残存する破片で口径13.2cmに復元され、器高1.6cmを測る。4は黒色土器A類壺である。1/6個体残存する破片で口径14.4cm、器高3.5cmを測る。

SD09は9世紀前半頃に埋没したものと推測される。

②土壤 (SK)

SK34 (Fig. 9)

2区中央部にて検出した。直径70cm前後の略円形の掘り込みに径20～40cmの亜角礫を5個投入している。深さは礫がちょうど隠れる程度に収まる。水田開墾時ないし耕耘時に現れた礫を処分した廃石土壤と推測される。

遺物は出土しなかった。

SK35 (Fig. 9)

4～2区にて検出した焼土壤である。

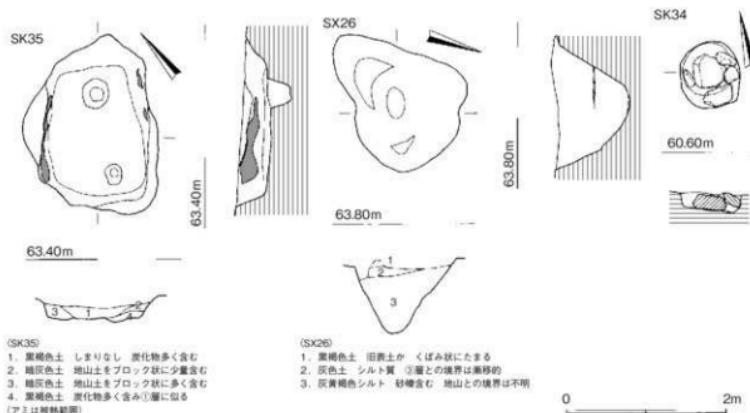


Fig. 9 2区SK34・4-2区SK35・5区SX26実測図 (1/60)

北東-南西方向に長軸を持ち、概ね地形に直交する。不整な長方形を呈し、長軸長2.2m・短軸長1.7mを測る。底面は概ね平坦で不整な凹凸はない。深さ30cmを測る。底面には概ね長軸の方向に沿って2基のピットを有する。被熱範囲は東西壁に部分的に検出され、広いところで幅20cm前後である。埋土は炭化物を非常に多く含み、しまりがなく軟質である。

遺物は出土しなかった。埋土の土質から近世以降の所産である可能性も考えられる。

③性格不明の遺構 (SX)

SX26 (Fig. 9)

5区にて検出した不整形の土壙である。後述する遺物包含層掘り下げ中に検出したもので、包含層との先後関係は現場では明らかにしえなかつた。断面形は放物線状で深さ90cmを測る。底面は狭小でピット等はない。埋土は地山のシルトに類似し、壁面は漸移的で検出に困難を伴つた。遺構ではない可能性もあるがここでは暫定的に土壙として取り扱つた。

遺物は鉄滓・繩文土器が小ビニール袋1袋分出土したが、小片のため図示していない。

④遺物包含層

検出範囲は5区に限られる。Fig. 6に示した土層断面からは現耕作土・床土の下に砂礫・シルトが堆積し土石流が流れたことがわかる。その下層に黒褐色を呈する旧表土がみられ、その層と遺構面の明黄褐色シルト層の間に遺物包含層を検出した。ただし5区のうちでもFig. 3(全体図)に示すとおり部分的に、遺構面のわずかな凹部にたまっていたものである。凹部は地形の傾斜に合致し、雨水による侵食溝の可能性を暫定的に考えておきたい。土質は灰黄褐色シルトで遺構面との境界は漸移的である。人為的な整地層ではない。遺物は繩文土器の分量が多いが、土師器・鉄滓が出土し包含層が堆積した時期は平安前期頃であろう。

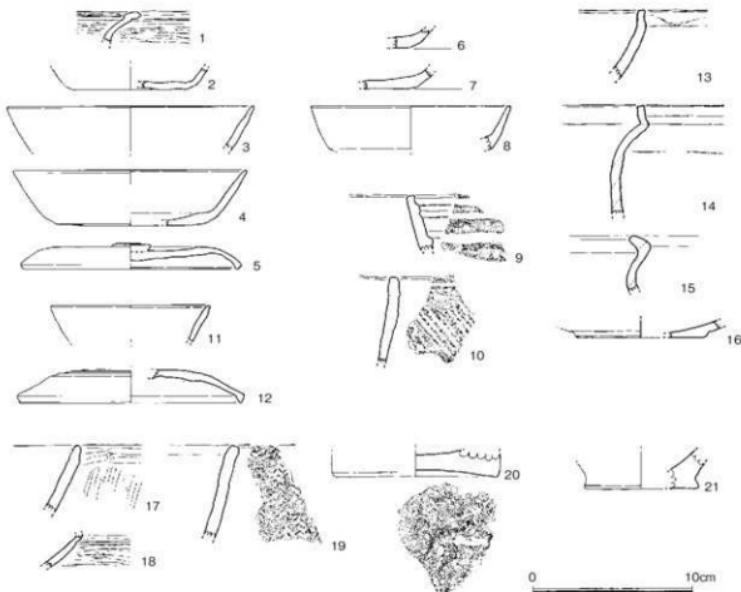


Fig. 10 長峰谷口B遺跡第1次調査出土土器実測図 (1/3)

出土遺物 (Fig. 10)

6～8は土師器である。何れも壊の小片。6・7は底部の小片で何れも器壁の摩滅が著しく調整は不明瞭である。6は残存高1.2cm、7は1.6cmを測る。8は口縁部の小片で口径17.2cmに復元される。9・10は縄文土器である。9は大石式ないし御陵式。深鉢の口縁部である。外面に3条の凹線を有する。残存高3.6cmを測る。10は粗製深鉢の口縁部である。口唇部の一端が上がる傾向を持ち、山形に隆起する可能性がある。残存高5.4cmを測る。

⑤ピットの出土遺物 (Fig. 10)

今回検出したピットは大半が木の根痕である。遺物はそれに流入した状態で出土した。

11・12は須恵器である。11は壊である。1区SP06出土。口縁部の小片で口径9.7cmに復元され、残存高2.3cmを測る。12は蓋である。2区SP10出土。天井部を欠く小片で口径13.6cmに復元され、残存高2.1cmを測る。

13～16は縄文土器である。13は粗製の鉢形土器。5区SP21出土。口縁部の小片で残存高4.3cmを測る。14は御陵式の深鉢である。実際の計測でこの傾きとしたがさらに立つ可能性もある。口縁部の小片で残存高6.8cmを測る。5区SP21出土。15は御陵式の浅鉢か。器壁は摩滅しエッジは丸い。残存高3.5cmを測る。5区SP27出土。16は底部の小片である。器壁は摩滅し調整は不明瞭だが薄く浅鉢と推測される。底径7.8cmに復元され残存高1.1cmを測る。

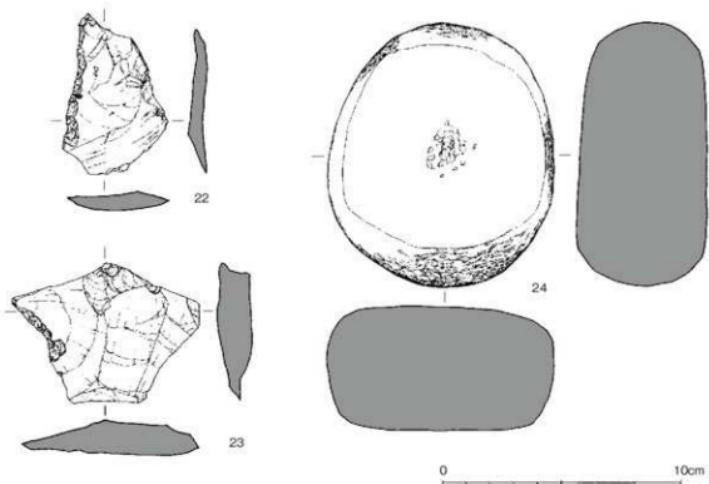


Fig. 11 長峰谷口B遺跡第1次調査出土石器実測図 (1/2)

⑥遺構検出面および廃土から出土した遺物 (Fig. 10)

何れも縄文土器である。17～20は遺構検出面出土。17・18は5区出土。17は深鉢の口縁部である。口縁内面側の器壁が剥落し、その下部には炭化物が付着する。18は精製浅鉢の脛部である。胎土は砂粒少なく精良。19は4区出土。押型文を有する深鉢の口縁部である。外面に山形の押型文を有し内面はナデ。残存高5.9cmを測る。20は4～2区出土。深鉢の底部小片で底径10.0cmに復元される。

⑦石器 (Fig. 11)

すべて5区出土である。遺構検出時に出土した。遺物包含層に帰属する可能性が高いが暫定的に遺構検出面出土として報告する。

22・23は古銅輝石安山岩製の石匙である。何れも大形の剥片を用い、1辺に刃部を作り出す。つまり部ははっきりしない。22は器長6.7cm・幅4.3cm・重量21.27gを測る。23は奴鳳形で厚みのある剥片を用いる。器長5.8cm・幅7.9cm・重量58.12gを測る。24は花崗岩製の擦石である。上下両面・縁辺部とも扁平となり使用による変形・摩滅が顕著である。縁辺部および中央部に打痕が観察できる。わずかに赤味を帯びた明灰色を呈し重量967.44gを測る。

5区包含層からはこのほかに黒曜石のチップ・残核が出土している。

⑧小結

今回の調査では、古代の溝および遺物包含層を検出した。遺構面全体にわたって削平が大きいことでもあってほかに明瞭に中世以前と認定しうる遺構はなく、人間活動の痕跡は希薄である。以下、溝と包含層について現場で得られた所見を述べてまとめにかえたい。

2区で検出した溝SD09は、削平が大きく1区検出のSD01が概ね同一方位をとっておりあわせて内法約15mを測る矩形の区画溝となる可能性がある。ただし両調査区の間には1m近い比高差があるた

め確実とはいえない。溝の内側にも明瞭な遺構はなく、憶測の域を出ない。しかし9世紀代には早良平野奥部の扇状地に大形掘立柱建物跡など官衙的遺構が複数検出されており、全く可能性のないことではない。

5区で検出した遺物包含層は鉄滓・土師器壇を含み、既述の通り古代、おそらく平安前期頃に堆積したものである。堆積状況が均一で分層できず、地山砂礫層との境界が漸移のことから人為的な整地層ではないと推測される。

この層には一定量の縄文土器が含まれていた。これらは押型文を有する1点を除き大石式から御陵式の範疇に含まれるとみられる。大形のサスカイト剥片を用いた石匙や花崗岩製擦石が少數ながら完形で出土し、土器片には摩滅しているもののが少ない。今回の発掘調査の契機となった事業に伴い本遺跡が乗る丘陵部はほぼ全域で試掘を実施しているが、調査地から山側、つまり西部では当該期を含め遺構・遺物はほとんどない。よってこれらの縄文時代遺物、は調査地と谷を挟んで南ないし北側の丘陵から流入したものと推測される。しかし何れの丘陵も既に造成が終了しており、縄文後期末～晩期初頭の集落、および平安前期の遺構は消滅した可能性が高い。古代の遺物も同様である。

今回の発掘調査は調査面積に比し遺構・遺物は僅少だったが、早良平野南西部の縄文時代・古代について新たな資料を提供したものである。



1. 調査区全景（東より）



2. 1区全景（南より）



3. 2区全景（南より）



4. 3区全景（南より）



5. 4区全景（南より）



6. 4-2区全景（南より）



7. 5区全景（南より）



8. 1区SD01土層（北より）



9. 2区集石（東より）



10. 4-2区焼土壙（北より）



11. 4-2区焼土壙土層（北より）



12. 5区SX26（東より）

報告書抄録

ふりがな	ながみねたにぐちびー						
書名	長峰谷口B 1						
副書名	長峰谷口B遺跡第1次調査の報告						
シリーズ名	長峰地区土地改良事業に伴う埋蔵文化財調査報告書						
シリーズ番号	3						
編著者名	阿部 泰之						
編集機関	福岡市教育委員会						
所在地	〒810-8622 福岡市中央区天神一丁目8番1号 Tel.(092) 711-4667						
発行年月日	平成25年3月22日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東経	発掘期間	発掘面積 m ²	発掘原因
長峰谷口B 遺跡	福岡市早良区 早良4丁目	40130		33° 30' 18"	130° 19' 49"	2011.7.4 ~8.19	1,984m ² 土地改良事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
長峰谷口B遺跡	集落	縄文・平安	溝・ビット・遺物包含層	須恵器・土師器・縄文土器	縄文後期～晩期の遺物		
要約	<p>今回の調査では主に古代末の溝および包含層を検出した。溝はL字形に屈曲するものがあり、削平のため建物等は検出できなかったが区画溝の可能性がある。早良平野奥部で複数発見されている官衙的建物群に関連するものか。</p> <p>包含層は縄文後・晩期の遺物を多く含むが、古代末頃の遺物も含み堆積の時期は古代。縄文土器は摩滅の度合いが低く、近辺に当該期の集落が存在したものと推測される。</p>						

長峰地区土地改良事業に伴う埋蔵文化財調査報告書 3

長峰谷口B 1

—長峰谷口B遺跡第1次発掘調査の報告—

福岡市埋蔵文化財発掘調査報告 第1206集

平成25年3月22日

発行 福岡市教育委員会
 福岡市中央区天神一丁目1番8号

印刷 株式会社 伸和
 福岡市東区社領2丁目7番4

